

平成30年度第2回狭山市廃棄物減量等推進審議会

開催日時 平成31年2月14日（木） 午前10時から午前11時45分

開催場所 奥富環境センター 4階会議室

出席者 川端委員、池田委員、関根委員、横山委員、吉川委員、林委員、
中村委員、田口委員、畔上委員、鎌田委員、古屋委員、山梶委員、
山口委員、吉浦委員 以上 14名

欠席者 室岡委員

事務局 吉田環境経済部長、神田環境経済部次長、立川資源循環推進課長、
吉田奥富環境センター所長、岡本副所長、小巖主幹、
資源循環推進課橋本主幹、岡主査

傍聴者 なし

1 開 会

2 あいさつ 関根会長

3 議 題

(1) 平成31年度狭山市一般廃棄物処理実施計画（案）について

事務局 計画の目的、排出量の見込み、収集運搬、処理施設、排出抑制・減量化・
資源化計画等について説明する。

[質疑応答]

議 長 これに関して、意見・質問があればお願いします。

委 員 もやすごみが、マイナス2.1パーセント減量となった、主な原因は何か。
人口減による自然減か、ごみ減量の啓発によるものか、あるいは生活様式の
変化に伴うものか。

事務局 1人当たりのごみ排出量が減っていることから、人口の減少だけではなく、
ごみ減量の啓発等によるものと考えられる。

委 員 マイバック持参率調査の調査方法と調査結果は。

事務局 市内3カ所の大型商業店舗の店頭で、推進委員の協力により、マイバック持参の有無等を聞き取りで調査している。調査結果は27年度、39パーセント。28年度、48パーセント。29年度が37パーセントとなっている。店舗により、持参率に差があり、28年度の調査対象店舗のうち1カ所が、特に持参率が78パーセントと高く、当該年度の持参率を押し上げたものとなっている。

委員 3010運動をはじめとする食品ロス削減事業においては、食品協会にも、ポスター等の掲示依頼もされると思うが、未加盟店舗にも協力を願うことも必要では。

事務局 できるだけ多くの店舗に協力願いたいと考えている。

委員 先程のマイバック持参率調査に関して、持参率の高い店舗のその持参率の高い理由は何か、把握しているのか。また、毎年度、同じ店舗を調査しているのか。

事務局 有料レジ袋、ポイント添付などの理由ではなく、ゴミの減量化をはじめ環境問題に関心が高い店舗であることと考える。調査対象店舗は、年度毎に調査対象店舗を替えている、同一店舗での継続調査ではない。市内大型店で無料レジ袋を配布している所はない。

委員 中国のペット・プラごみ輸入禁止に関連し、狭山市にも影響が出ているのか。

事務局 狭山市は日本容器包装リサイクル協会に加盟しており、これによるプラごみの処理は国内で全て行われていることから、中国の輸入禁止による影響はない。協会に加盟していない一部自治体の独自ルートでは、輸入禁止前は高い価格で売れていたが、輸入禁止後、処理先がなくなっている。処理先を国外に求めることは難しく、国内処分の割合が高まることにより、今後狭山市にも影響が出てくることも考えられる。

委員 処理経費は、排出者が費用を負担するのか或いは資源物として収入となるのか。

事務局 ペットについては、再処理が統一的に出来ることから収入となっているが、プラスチックについては、処理に手間がかかることから費用負担となっている。この費用に関しては、容器包装を製造している業者も負担しており、狭山市としては家庭から出たものを収集して、圧縮・梱包して容器包装リサイクル協会に出すための中間処理費を負担しています。

委員 その中間処理費の状況は、年々上がっているのか。

事務局 人件費等から、若干ですが徐々に上がっている状況です。

委員 汚れたプラスチックについては、洗ってプラスチックゴミで出すのか、洗わず

そのままもえるごみで出すのか判断に迷うが、どうすれば良いのか。

事務局 プラスチックとしてリサイクルするためには、洗ってきれいになっていないと処理できないので、洗って出していただくようお願いしています。どこまで洗うかとなると、油汚れなど、落とすのが難しいものは、もやすごみに出していただいています。水ですすぐ程度で汚れの落ちるものは、プラスチックゴミに出していただいています。無理のない範囲で、お願いしています。汚れの落ちていないもの、落とせないものがプラスチックごみに混入することが一番の問題となりますので、そのようなものはもやすごみに出していただくようお願いしています。

委員 プラスチックが資源になるという意識がまだ低いと思いますので、子供にも学習等により、浸透させていくことも必要と考えます。

事務局 なぜ分別しているのか、プラスチックを再利用するためということを意識付けたいと思います。

委員 プラスチックに付いている、貼ってある紙等のラベルは剥がして出すのか。

事務局 以前、再利用施設・工場の方に尋ねた際には、再利用の方法にもよるが、マテリアル処理の場合、プラスチックを溶かして利用するので問題とならないとの事でした。

委員 収集されたプラごみは、民間の処理施設でどのように処理されるのか。

事務局 柏原にある中間処理施設では、収集した袋を割いて、異物が混入していないか確認して、あれば取り除き、プラマークのあるものは容器包装プラスチック協会へ圧縮・梱包して送られて再処理されています。マークのないおもちゃなどの硬質のプラスチックは容器包装プラスチック協会とは別のルートで再処理しています。容器包装プラスチックと硬質のプラスチックを一緒に収集している自治体は、近隣では狭山市だけで、手作業で容器包装リサイクル協会へ送るものとそれ以外のものに分けています。

委員 一部の家庭では、汚れていても、もやすごみに出さず、プラスチックで出来ているので、プラごみとして出している様子、市全体ではかなりの量の汚れたプラスチックがプラごみに含まれているのではないかと。それを手作業で分けるのは、大変な手間になるので、家庭での分別が大事なことと考える。

事務局 市内民間の中間処理施設では、汚れたプラスチックの臭気も強く、大変な作業である。ここでは、他県からのプラごみも処理しているが、工場の方の話では、これに比べ、狭山市からのプラごみの方がきれいだとのことであった。

委員 前回の審議会でお話しのあった雑紙回収袋の配布についての進捗状況は。
また、剪定枝については、施設に直接搬入すると再資源となり、収集によるのはもやすごみとなる。先程のプラごみも含め、再資源化できるものと出来ないものなどの啓発は、地道な活動によるものと強く感じた、今後も継続して行ってほしい。

事務局 雑紙をダンボール・新聞紙等の他の古紙同様にリサイクルしたいとの考えから、回収袋やチラシなどを配布し、リサイクル率の向上に努めておりますが、他の古紙に比べてまだまだ低い状況です。引き続き取り組んでまいります。

委員 諸団体の集団回収により、行政回収の古紙、雑紙のリサイクルに影響が出ているのでは。

事務局 集団回収も盛んに行われていますが、古紙全体としての量が減っている状況です。新聞、雑誌の購読量の減少や新聞店による古紙回収などにより、古紙の全体量が減っている状況です。

委員 古紙が再資源化されずに、もやすごみとなるのは大変勿体ない事なので、先程委員からお話しがあったが、継続して啓発に努めて欲しい。

(2) 災害廃棄物処理計画について

事務局 一次仮置場の候補地リスト、計画の運用と見直し等、第1回審議会で提示した処理計画案の変更箇所について説明した。

[質疑応答]

議長 これに関して、意見・質問があればお願いします。

委員 大規模災害が発生した際、し尿処理については大変重要なこととなるが、仮設のトイレはどこに設置されるのか。

事務局 地域防災計画上は学校等に設置される避難所となっているが、被害状況によっては避難の必要はないが、自宅のトイレが使えない人もでてくるので、仮設トイレの設置場所については危機管理課の他関係課での協議となる。災害廃棄物処理チームの役割としては、設置された架設トイレのし尿の収集・処理を行うものです。

委員 災害廃棄物の処理期間としては、3年以内となっていて、災害規模が大きく広範囲の大規模災害において膨大な災害廃棄物の発生が見込まれる場合は、国、県と連携し広域処理などでの対応となっているが、大規模災害が発生した際の対応としては、災害発生とほぼ同時に国、県と連携するのか、或いはしばらくの間は、

市で対応し、処理が3年で終わらない状況になったときに国、県と連携するのか。

事務局 狭山市で処理できないような災害が発生した際には、近隣も同じ状況と考えられる。その際には埼玉県が窓口になって、国や他県への支援依頼することになっています。

委員 緊急仮置場に関する考え方は。

事務局 この処理計画では仮置場の候補地を記載していますが、災害の際、まず必要となるのが緊急仮置場と考えています。平成28年度の不老川が溢れた際には、自治会の駐車場などが緊急仮置場的に使われたが、今後各自治会と相談して、自治会単位毎に緊急仮置場を設定したいと考えています。

委員 今後の災害廃棄物処理計画の策定スケジュールは。

事務局 審議会後、庁議に諮り、最終的な審議の上、今年度中に策定と考えております。

委員 地域防災計画との関係、位置付けは。

事務局 地域防災計画の下位計画として、位置付けられるものです。なお、地域防災計画の中にも元々、災害廃棄物の処理、ガレキの処理やし尿の処理についての概要が記載されています。参考に策定率ですが、全国の都道府県で57パーセント、市町村で24パーセント、去年の西日本豪雨被害の自治体でも未策定の所が多かった状況でした。この事から国からは早急に策定するよう通知されています。また、埼玉県内の策定率は30パーセントで、近隣の所沢、入間、飯能、川越、日高は未策定です。

委員 緊急仮置場を設定する際、自治会自主防災組織との調整も必要となるのでは、その組織率は。

事務局 ほとんどの自治会で組織されています、(121自治会中96自治会)

委員 計画中、対象とする災害廃棄物の種類に有害廃棄物とあるが、有害物質や薬品それぞれに対して業者選定はできているのか。

事務局 環境課で市内事業所が保有する有害物を把握していますが、処理業者等については、今後検討してまいります。

4 その他(事務局より説明)

ごみ減量推進啓発活動について

- ・「もやすごみ」はかるだけダイエットについて
- ・雑がみの分別推進について

5 閉 会

提出資料

(委員全員)

- ・平成30年度第2回狭山市廃棄物減量等推進審議会 次第
- ・資料1 平成31年度狭山市一般廃棄物処理実施計画
- ・資料2 狭山市災害廃棄物処理計画 (案)
- ・「もやすごみ」はかるだけダイエットちらし